

2026年度 事業計画

1、事業実施概要

誰ひとり取り残さない社会の実現のために、地域とのつながりを大切にしながら障がい者アートを通じた自立支援を行う。

エキスポを含めたアート販売はハイブリッド（実地展示とオンライン販売）形式を基本とする。

第16回 チャレンジドアートエキスポ2026

開催概要（案）

開催目的：障がい者がつくる芸術品（オンリーワンアート）を世に紹介し、アートでの自立支援について、社会とともに考える。

テーマ：共生 ～ ともに生きる ～

時期：2026年10月～2027年1月（予定）

主催：特定非営利活動法人サポートセンターどリーむ

共催：島根県商工会議所連合会、一般社団法人新極美術協会

協賛：一般財団法人ごうぎん財団、山陰パナソニック㈱

場所：地域行事への出展も含めテーマに沿ったイベント会場での展示及びwebでの販売

展示物：障がい者アート協会、どリーむに通うアーティスト作品（絵画、陶器、工芸品等）
計500点を予定

1) 本部事業

- ・理念の継承と地域密着： 法人の理念をもとに、障がいの有無に関わらず地域において個性を活かすことができるよう福祉活動を推進する。
- ・業務の合理化： DXによる業務効率化と「見える化」等により組織体制の最適化を目指す。導入済みの「独自業務効率化システム」やAI等を活用し、事務負担の軽減とペーパーレス化を図るとともに、業務の「見える化」をより進め、組織全体の業務合理化を進める。
- ・人的資本投資： 従業員エンゲージメントを向上させることで、利用者に対して質の高い支援が提供できるよう環境を整える。

2) わんぱく学園事業

活動休止

3) 就労継続支援B型事業（わんぱく大使館）

- ・第16回 チャレンジドアートエキスポの開催： 2026年10月～2027年1月までを予定期間とし、約500点の作品を実地展示とオンライン販売のハイブリッド形式で展開する。
- ・障がい者アートの普及活動： 障がい者アーティストでしか表現できない生のアートを展示販売などを通じて体験してもらい、障がい者アートの魅力を地域社会に広める。
- ・企業連携と販路拡大： TOPPAN株式会社や株式会社アイ・ねっと、山陰パナソニック株式会社と連携し、アートの二次利用や施設外就労を通じて平均工賃の向上を目指す。
- ・質の向上： 通所利用者の活躍に繋がるよう、従業員エンゲージメントを向上させることで質の高い利用者支援につなげる。

4) 相談支援事業

- ・質の向上と人材育成： 相談支援専門員の資質とレベル向上のため、資格取得研修やOJTに積極的に取り組み人材育成につなげる。
- ・ニーズへの適切な対応： 多様化する相談ニーズに対し、外部の社会資源を有効活用し、利用者が自立した暮らしに必要な支援提供を行う。

5) 共同生活支援事業（わんぱくハウス）

- ・地域共生の推進： 「地域連携推進会議」を軸に、自治会や近隣住民との信頼関係をより一層深め、利用者が安心して生活できる環境を整備する。
- ・専門的な支援体制： 利用者の高齢化にも対応できるようにするため、医療機関との連携も視野に入れ、職員への専門研修を継続的に実施する。

6) その他、新たな商品開発やアイデアの創出を推進しながら、ビジネスの活性化を目指す。

2、事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係わる事業

事業名	事業内容	実施事業の日時、場所 従事者の人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (単位：千円)
本部	本部運営	通年	36名	196
就労継続支援B 型事業所 わんぱく大使館	アート展開催 WEB	第16回チャレンジドアート エキスポ R8年10月～1月 (地域行事参加型、実地展示と オンライン販売での開催) 8名	絵画、陶芸製作者 17名 17名	150
	障がい者の就労 支援	毎週月曜日～金曜日 9時～16時 わんぱく大使館 5名	わんぱく大使館 利用者 23名	38,624
計画相談支援	障がい者の計画 相談支援	毎週月曜日～金曜日 10時～16時 相談支援事業所わんぱく 3名	相談支援事業所 わんぱく 利用者 9名	3,952
共同生活支援 事業	障がい者の共同 生活支援	年末年始以外 わんぱくハウス 4名	わんぱくハウス 利用者 2名	7,449
わんぱく学園 事業	実施しない。			
合 計				50,371

(2) その他の事業 今年度は実施しない。